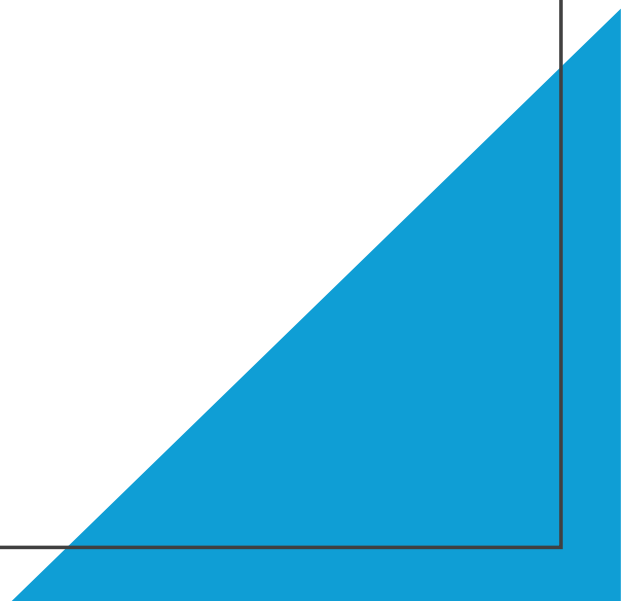


保育参加日「親子ちまき作り」 の取り組みについて

福島大学附属幼稚園





毎年何十個も作り続けている方は
手際が違いますね。



講師は現園児の祖母
顔なじみなので緊張することもなく、
和やかな雰囲気が始まります。



笹の葉の不要な部分を切るのは
子どもの仕事

母親が笹の葉を形作ったところに
餅米を入れます。





たくさんできました。
お母さんもいい表情ですね。



一晩水につけておきます。
できあがりを楽しめます。

おいしそう！

ゆでたまきはコートかけにさげて
冷まします。



葉っぱは
むくんだね！



自分たちで作ったものを食べるのは
ワクワクしますね。

他のクラスにもお裾分けし、お家にも
お土産も持って帰りました。

保育参加日「親子ちまき作り」の取り組みについて

福島大学附属幼稚園

コロナ禍を受けて、行事への取り組み方を見直し、教師の負担軽減のため縮小したり、削減したりする傾向があるが、伝統行事を見直す意味で復活を試みた行事もある。その一つがこの保育参加日で取り上げる「親子ちまき作り」である。

福島市では、端午の節句にちまきを作り、子どもの成長を祝う風習がある。旧節句に合わせて、市内の青果店やスーパーでは、ちまきを包む笹や包んだちまきを結ぶいぐさが店頭に並ぶ。このちまきは、普通に「ちまき」と言われている中華ちまきとは違い、餅米を笹の葉に包み、ゆでたもので、食べるときに自分できなこをつける甘いちまきである。以前は旧節句の時期になると、どこの家庭でも大量に作り、お弁当に持たせていた。しかし、近年ではお弁当に持ってくる子はほとんど見られなくなっていた。伝統行事に親しませると共に、数少ない福島市の伝統食を未来につなげていきたいと考え、年長組の保育参加日（保護者も保育に参加する活動）に親子ちまき作りの活動を取り上げている。（コロナ禍は調理や会食に不安があったため、別の活動を取り上げており、昨年度からちまき作りを復活させた。）

保育参加日の意義、親子ちまき作りの意義はそれぞれ以下の通り。

1. 保育参加日の意義

親子でできる活動を提供することで家庭での子どもとのかかわり方を学ぶ機会とする

身近な素材を活用して遊べることを保護者に知ってもらう

親子でじっくり取り組み、ともに満足感や充足感を味わい、協働作業で達成する喜びを味わってもらう

2. 親子ちまき作りの意義

伝統的な行事に親しみ、それにまつわる地域の伝統食を意識させる

調理にかかわることで、食材に興味をもったり、作る過程を楽しんだりして、食べることへの関心につなげる

保護者は地域の伝統食に目を向け、関心をもつことにつなげる

これらをふまえ、コロナ前から次のことを改善した。

以前は、学校評議員など地域の方に講師をお願いしていたが、より関心をもってもらえるように、園児の祖母世代で得意な方に依頼するようになった。このことにより、「〇〇君のおばあちゃんは、すごい！」「××ちゃんのおばあちゃんは教えるのが上手」などと、周囲の方々に言われ、自分の祖母（保護者にとっては母や義母）の良さに改めて気づき、年長者を敬うことにもつながっている。

保育参加日の成果

自分たちがちまき作りの活動にかかわることで、興味を持って笹の葉やいぐさ、餅米などの素材に触れ、匂いや感触などを直に感じることに繋がった。また、店頭でそれらを目にすることで季節を感じたり、行事について連想したりするようになった。活動にかかわった保護者は、親任せにしていたちまき作りを実際にやってみようとするなど、着実に成果が現れている。